

福井県生活学習館(1/2)

ユー・アイふくい

応援しますし心を
心豊かな生活と学び心を

所在地	福井市下六条町14-1		
設置年月日	平成7年7月1日		
施設の種類	会館	施設管理主体	県
設置の目的	男女が共に参画する社会の実現および県民の生涯学習の充実を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延9,322㎡ 多目的ホール・映像ホール・各種学習室・情報ルーム(図書・ビデオライブラリー)・映像制作室		
職員数	職員20人、非常勤嘱託6人 アルバイト2人 計28人		

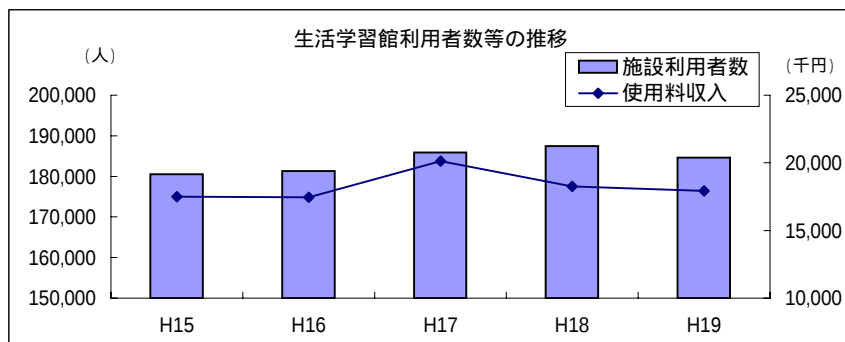
利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
施設利用者数(人)	147,675	147,729	152,037	153,315	150,499
情報ルーム利用人数(人)	32,879	33,553	33,811	34,137	34,137
合計人数(人)	180,554	181,282	185,848	187,452	184,636

利用者負担(利用料金)等

多目的ホール、学習室等施設の使用に当たっては、条例に規定されている使用料を徴収します。
情報ルーム無料

施設HP「施設利用案内・使用料の一覧」参照



利用状況の推移	毎年の利用者数は、施設利用が14万人台、情報ルーム利用者は3万人前後で推移していましたが、平成17年度には、年間施設利用者が15万人台に達しました。それ以降15万人台で推移しています。平成19年度の総利用者数は約18万4千人となりました。なお、平成19年10月には、平成7年7月の開館以来、利用者総数累計が200万人を達成しました。
---------	---

施設の特徴

施設

男女共同参画と生涯学習センターの機能を兼ね備えた複合施設として、各種の学習や講座、研修、講演に対応した施設・設備を備えています。



女子高校生のための科学・技術者への招待セミナー

男女共同参画社会づくりの促進

男女共同参画に関する総合的な学習の場として「ゆー・あいカレッジ」を開設し、コース別に体系化して、毎年見直しを行いながら効果的に実施しています。また、女性が地域や職場で責任のある役割を担い、個性と能力を発揮して活躍できる社会をめざして「ふくい女性活躍支援センター」を開設し、意欲ある女性を支援しています。

女性総合相談・配偶者暴力被害者相談・女性のキャリア相談などを行っています。

生涯学習社会の推進

「いつでも、どこでも、だれでも」生涯にわたって学習することができる生涯学習社会を創造するため、指導者の養成や学習機会の提供、学習活動の促進など5つの事業を中心に内容の充実を図りながら実施しています。特に、福井ライフ・アカデミー事業では、主催講演・講座の開催をはじめ、市町・大学等との共催・連携事業により、県民の多様な学習ニーズに応えています。

各市町の学習機関などの学習情報を系統的、継続的に収集、整理して提供します。

また、県民がボランティア講師となって自主的に運営する学習講座「友愛塾」の開設も推進しています。



現代的課題講座

生活学習館ホームページ

<http://www.manabi.pref.fukui.jp/you-i/>

平成19年度の特徴について

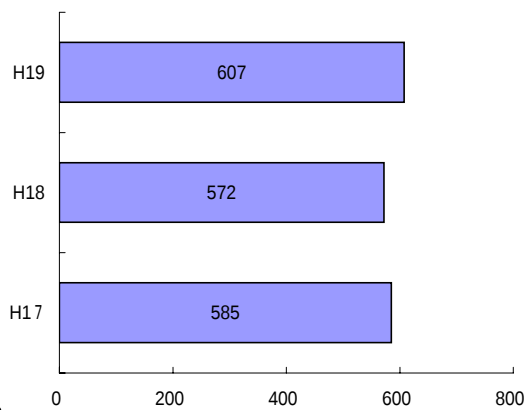
事業実績	施設の利用実績 184,636人
	- ゆー・あいカレッジの開設 延受講者数 3,108人 (8,433千円) - キャリア・アカデミー - 女性のチャレンジ支援コース - 応援参画コース - 男性コース - 男女共同参画推進リーダー養成講座 - 地域リーダー講座修了生 19年度末 330人 - 女性総合相談 相談件数 1,426件
事業実績	- 生涯学習指導者養成 (1,966千円) - 福井ライフアカデミー (14,459千円) - 入学生数 9,773人 - 主催講座 - 親子のあり方について学ぶ 家庭教育講座 - 地域貢献・地域づくりを学ぶ 地域活動講座 - ふるさと福井について学ぶ 郷土学習講座 - 現代的課題について学ぶ 現代的課題講座 - 学習活動促進のためマナビ・フェスティバル2007開催 (1,452千円) - 生涯学習相談 相談件数 8,775件

福井県生活学習館(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位: 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	224,720	45.4%	104.9%
	退職給与引当金繰入	▲ 240	0.0%	-18.5%
	計	224,480	45.4%	104.2%
物にかかるコスト	物件費	159,577	32.2%	114.6%
	維持補修費	7,466	1.4%	77.2%
	減価償却費	101,400	20.5%	100.0%
	計	268,443	54.1%	107.2%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	皆減
	その他	2,307	0.5%	100.5%
	計	2,307	0.5%	100.5%
合 計		495,230	100.0%	105.8%
収入	利用料等収入	17,919	3.6%	100.0%
	その他収入	6,875	1.4%	100.0%
	一般財源	470,436	95.0%	106.1%

県民1人あたりのコスト負担の状況



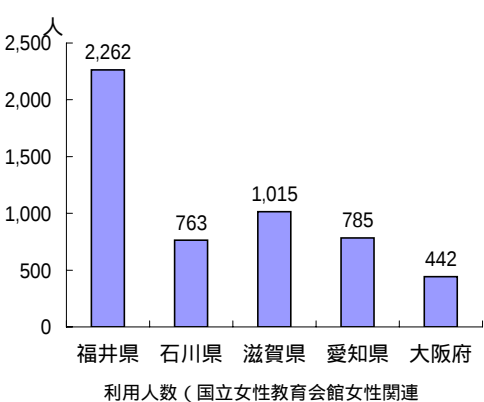
バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位: 千円)

借方			貸方		
資 産		前年比	負 債		前年比
有形固定資産	4,085,649	97.6%	固定負債	158,860	99.8%
うち土地	254,039	100.0%	うち退職手当引当金	159,100	100.8%
うち建物	3,724,477	86.7%			
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	3,926,789	97.5%
計	4,085,649	97.6%	計	4,085,649	97.6%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	5,011	5,116	97.9%
県民1人あたり将来負担額	195	194	100.2%
世代間負担率	96.1	96.2	99.9%

人口1万人当たりの府県立男女共同参画センターの利用者数比較



バランスシート、行政コスト計算書の特色	貸借対照表の分析 ・資産の内訳は土地、建物、設備であり、将来の財政負担要因となる負債についても施設の公債費償還が完了していることから退職手当引当金のみとなっています。 損益計算書の分析 ・男女共同参画の推進および生涯学習の推進の講座開設をはじめとした事業実施のため、人にかかるコストの割合が高くなっています。 ・生活学習館主催の講演・講座の受講や情報ルームの利用は無料であるため、1人あたりの平均利用料は低くなっています。 ・なお、H18年度に比べ利用料収入が減少(18,251千円→17,919千円)しました。これは、18年度には日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム等の大規模催事があったことによるものです。 コストの節減に努めていますが、19年度には生涯学習情報ネットワークシステムの更新等があったことから、県民1人あたりのコストは増加しています。 ・1万人当たりの利用者数については、生活学習館が男女共同参画と生涯学習の機能を持つ複合施設であることから、単独施設に比べ多くなっています。
	施設の目的上、管理運営上、主要な事業 1 男女共同参画の拠点施設として講座の開設、指導者養成、相談業務を行っています。(29百万円) 2 生涯学習推進のため講座の開設による学習機会の提供とその成果を生かした指導者の養成、研修を行っています。(18百万円) 3 県内の生涯学習ネットワークの拠点として、生涯学習関連情報や学習コンテンツをインターネット上で提供しています。また、視聴覚機器や貸出用教材による情報の提供を行っています。(16百万円) 4 充実した各種学習室や多目的ホールを備え、女性の自主活動グループや生涯学習グループをはじめとした県民のグループ活動から講演会の開催等に対応しています。(91百万円)
	今後の課題 1 多くの女性が地域や職場で責任ある役割を担い、優れた能力を存分に発揮できる「女性活躍社会」の実現をめざすための新たな取組を行っていく必要があります。 2 多様化、高度化する県民の学習ニーズに対応した講座の提供と満足度の向上による受講者の増により、県民のコスト負担に答える必要があります。 3 多くの県民に等しく学習機会の提供するなどの取組を進める必要があります。 4 施設利用者総数を増やし、資産の有効活用を図る必要があります。
今後の事業方針、取組み内容	1 平成19年8月に開設した女性活躍支援センターを中心に、高い資質を備えたリーダーを養成するための講座の開催や働く女性のネットワークづくりを進めます。 2 県民の学習ニーズの把握に沿った講座内容等に努めます。 3 企業出前講座や大学開放講座の充実、再構築した生涯学習情報ネットワークシステムを活用し、市町との情報連携の強化、講座のネット配信などの充実を図ります。 4 充実した施設、設備の紹介だけではなく、無料バス(フレンドリーバス)や大駐車場などアクセスや周辺環境の広報素材を工夫し、積極的な広報に努めます。